

第23回 京都実技セミナー 概要報告

KTSM実技セミナー基礎コース

～安全・安楽・自立性を意図した食事介助スキルアップセミナー～

【開催目的】

摂食嚥下障害患者への食事ケアに関連した知識の向上をはかり、食事時の姿勢調整、安全で効率的な食事介助技術を習得することで、適切な食事の提供、実際の食事場面へ介入していけるようにスキルアップをはかる

【対象】

管理栄養士、栄養士

【開催日時】

平成27年12月19日（土曜日） 13:00～17:00

【プログラム】

1. 全体講義：総論、口から食べる幸せをサポートする包括的スキル
2. 演習①：食事時のポジショニング
3. 演習②：安全で効率的な食事介助技術
4. 演習③：セルフケア拡大に向けたアプローチ
5. まとめ・質疑応答：KT バランスチャートの展開方法

【アドバイザー】

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美 （神奈川）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事長	看護師 （日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士）
竹市美加 （兵庫）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師 （摂食嚥下障害看護認定看護師）
児玉 秀樹 （兵庫）	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	歯科医師 （KTSM 実技認定者）
山廣 芳枝 （大阪）	大阪府済生会中津病院	看護師 （摂食嚥下障害看護認定看護師）
山路 雅美 （兵庫）	田中病院	管理栄養士 （KTSM 実技認定者）
井上 久美子 （兵庫）	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	管理栄養士 （KTSM 実技認定者）

【セミナー場面】

演習①食事時のポジショニング



患者体験を通し、体のズレ・背面の圧迫による苦痛や飲み込みにくさを体感して頂き、適切なポジショニングの必要性を体感して頂き、ベッド挙上や背面の圧抜き、クッションなどを使って姿勢の安定性向上を実践

演習②安全で効率的な食事介助技術



ベッド上での食事介助：全介助では、視覚情報入力により食物認知を高める、適切なスプーン操作、対象が食べやすいスピード・タイミングでの介助を実践



肘やテーブルの高さを調整し、手を包みこむようにアシストすることで、セルフケア向上につながる介助を実践

演習③セルフケア拡大に向けたアプローチ

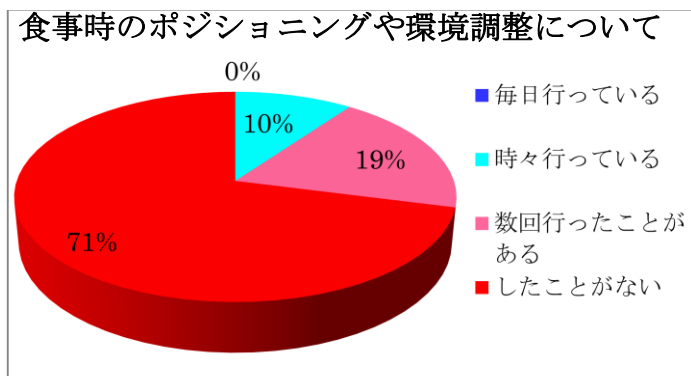
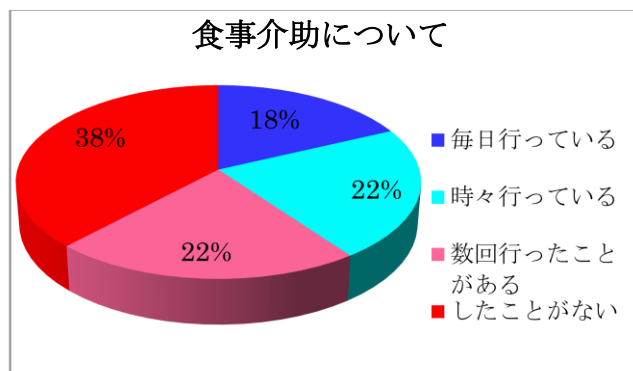
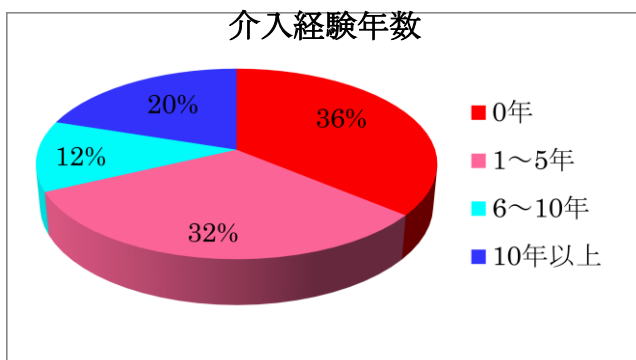


座面のたわみ補正・上下肢の安定、背面のサポートなどのシーティングや、対象の良好な機能をみつけ、出来ないところだけアシストし、セルフケア拡大へのステップアップ介助を実践

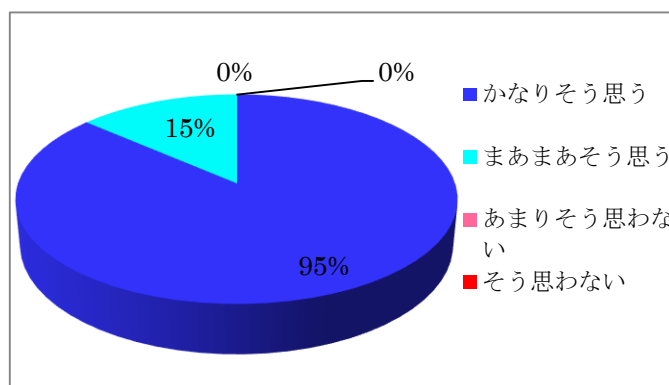
【アンケート結果】

Q 1. 摂食嚥下障害患者への食事ケアについて、介入している状況

・介入経験年数

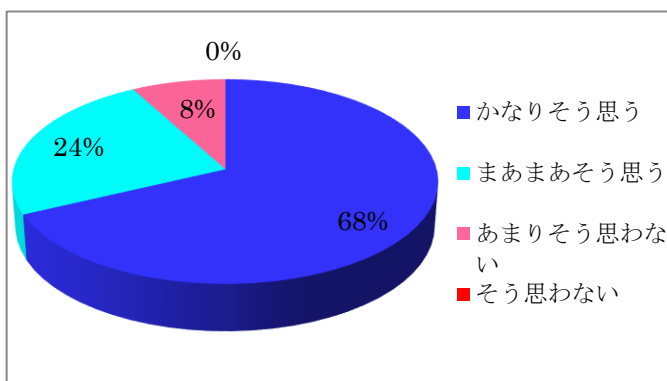


Q 2. セミナーの内容は、口から食べる技術に関するスキルアップにつながったか



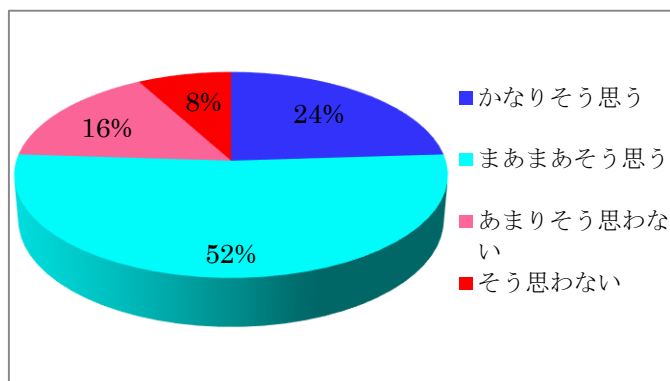
- ・自分の経験と見様見真似で行っていたので、適切な方法を知ることができた
- ・すぐに実践してみたい
- ・患者体験をすることで、ポジショニングの大切さがわかった
- ・KT バランスチャートを使用して、客観的な評価により、複数のスタッフでアプローチ方法を考えることができると思う
- ・評価しているつもりだったが、まだまだ曖昧だったことに気付いた
- ・患者体験が勉強になった
- ・実践できたことが大変良かった

Q 3. 今後の実践場面で活用できるか



- ・ミールラウンドで活用していきたい
- ・嚥下の問題点を見るだけでなく、食べる事が出来る人を見つけ出し援助できればと思う
- ・自分で実施する時間を作っていきたい
- ・自信を持って、食事介助に踏み出せます
- ・まずはリスクの低い人から介入していきたい
- ・多職種と具体的に話し合っていきたい
- ・食事環境調整を食事場面で実践していきます
- ・スプーン操作などがわかったので、実践します
- ・もっと自信をもてるように練習して活用したい

Q 4. 今後研修会を、自ら企画して行いたいと思うか



- ・多職種との協同が必要なため、調整したい
- ・施設の理解を得たい
- ・必要性・重要性は強く感じるので、取り組みたい
- ・同じ思いの仲間作りをまず取り組みたい
- ・NST 委員と ST に伝達したい
- ・院内勉強会で、企画に入れたい
- ・今のスキルでは難しいので、まずは自分自信のスキルアップをしたい

Q 5. KTSM 実技認定審査の受験を希望するか

希望する 7人
 希望しない 12人
 無回答 6人

参加頂いた皆様、京都栄養士会・フードケア・三笑堂・シーホネンス株式会社などご協力いただいた皆様、ありがとうございました

